

令和7年度 第3回米子市環境審議会開催結果

1 開催日時

令和7年11月21日（金）午前10時から午前11時20分まで

2 開催場所

米子市クリーンセンター3階 301会議室

3 出席者（敬称略・順不同）

<委員11名>

尾崎 米厚、天野 宏紀、山口 啓子、蔵本 洋介、

平木 尚一郎、田邊 忠雄、熊谷 春美、田部 美穂、岩永 秀子

（欠席：朴 紫暎、藤井 雄三、中西 広則、武良 賢治、伊藤 直子、林 篤）

<事務局9名>

橋尾 市民生活部長、足立 市民生活部次長兼環境政策課長、

高浦 クリーン推進課課長、池口 クリーン推進課課長補佐、

宮脇 環境政策課担当課長補佐、木村 環境政策課担当課長補佐、相田 環境政策課係長

4 議事事項

(1) パブリックコメント等実施報告

配布資料

【資料 1】 民生教育委員会指摘事項一覧

【資料 2】 パブリックコメント実施報告書

【資料 3-1】 第2次環境基本計画改定版パブリックコメント概要

【資料 3-2】 （参考）パブリックコメント詳細情報

【資料 4】 第2次米子市環境基本計画改定版（案）

【参考資料 1】 審議会委員名簿

5 公開・非公開

公開

6 傍聴者数

0名

7 議事の概要

・議事(1) パブリックコメント等実施報告

【会長】

パブリックコメント 1、2、3 の意見提出者の文面からは、中国への強い意識が感じられる。また、回答中に当局から示された企業は WeRide 社であり、これは同じく中国のスタートアップ企業であるため、意見者の求める回答とは違うのではないかと考える。

【事務局】

文面から特定国への強い警戒心は読み取れると理解しているが、明言はしない。確かに、意見者が中国企業に対する懸念を示していることに対し、回答に別の中国企業を挙げているが、これは単に事実の訂正を行っているに過ぎない。米子市としては国や地域を問わず良いものは良いという立場であり、特定の国を排除する考えではないことを回答で示している。

【A 委員】

パブコメで米子の水に関する意見に共感した。米子の水をブランディングして全国的に発信すべきであると考え。また、昨年の大規模イベントでは米子の水の PR が十分でなく、さらにプラスチックボトルの廃棄処理についても整理が不十分であった。職員が多数参加していたにもかかわらず意識が低いと感じたため、今後のイベントでは市役所内で方針を統一し、各部署へ強く周知すべきであると申し上げる。

【事務局】

米子の水の PR 方法についての質問と理解している。水道局ではペットボトル販売を行い、民間企業や県東京本部でも米子の水を PR している。また会議の場でも水を配置するなど一定の施策を実施しているとの認識である。イベント時の PR 不足や廃棄物処理のご指摘は今後の改善点として受け止めた。

【事務局】

イベントでの米子市の水の PR についてのご意見は、観光課に伝えたい。米子市が誘致した民間企業が地元で製造するミネラルウォーターをイベントで無償提供しており、こうした地元産の水をどのように PR するか、市内部で検討していきたい。

【B 委員】

健康づくりの集まりでは、水道局から水を買って宣伝しているが、米子市民自体が、おいしいペットボトル入りの水が水道局にあることや、どこに販売されているのかを認識していないという課題がある。たまたま公民館のイベント後、自動販売機で水を見つけて「ここにあるの？」と驚いた。販売場所が水道局や文化ホール以外にどこにあるのかがわかりづらかった。事務局へ行って注文するような手間ではなく、「ここにもありますよ」といった、より分かりやすい販売場所の周知を強化する必要がある。

【事務局】

承知した。ジャストアイデアであるが、現在、環境政策課は YouTube チャンネルを持っており、若手が積極的に発信しているので、そのコンテンツに含めることができるかもしれない。なお、水道局のウェブサイトには販売場所についての情報が掲載されている。

【会長】

以前、米子市の水道局長から、飲料メーカーの巨大プラントが江府にあることを聞いた。そのプラントで水を汲み上げ、いわば 50 年先の水資源を先取りしているような状況について、「未来にわたって米子市の水は大丈夫なのか」という懸念を抱いた。そのため、米子市の水源の分量に関するモニタリング体制が存在するのかどうかを確認したい。また、SNS などによくある水源地在外国の者に買われてしまうというニュースも懸念しており、市が水源地在を保有していると安心である。

【事務局】

すぐに回答を用意していないが、水源涵養林という観点から述べると、米子市は南部町、日野町、日南町に合計 5 か所の涵養林を所有している。

【C 委員】

掲載されている写真は素晴らしいが、キャプションの有無が統一されていないので整理してほしい。また、湊山公園の写真のように人が写っていないと寂しい印象を受ける。米子の名所やイメージを伝えるうえで、ガイドマップにあるような花火など、もっと賑やかな雰囲気が伝わる写真があっても良いのではないかと思う。

【事務局】

キャプションの有無について統一する。文章と写真のリンクについては、米子の代表的な写真を極力入れたいという意図が先行し、本文とリンクしていない写真が多くなった。この点は再考する。賑やかさについては、昨今の事情で人を写すのが難しいものの、寂しい印象になったことは承知している。顔を隠すなどの対応がとれるかどうか検討する。

【副会長】

環境基本計画は環境と土地を良くするための戦略であるため、コマーシャルを作る感覚で、水の問題や写真など、質の向上を図るべきである。モデルを使うなど、効果があるならばそのようなやり方も取り入れるべきである。

特に、日本海側の環境、すなわち浸食や松くい虫の被害で破壊されつつある松林の環境を危惧している。この日本海側の景観は、大山や島根半島も望める米子市の重要な財産であり、インバウンドや観光資源にもなるため、大事にすべきである。環境基本計画は、単に基本的なことばかりでなく、魅力あるプランとなるよう、観光戦略的な視点も含めて配慮できるとよい。

【事務局】

副会長がおっしゃられたのは、観光資源を効率的に活用し、環境を守りつつも外に向けて発信していくべきという点であると理解した。

ご指摘の通り、弓浜半島、特に日本海側に関しては、前回の審議会で日本海側の視点が抜けているとの指摘があり、ボランティアの観点から対応している。具体的には、日本海側でもボランティア活動を積極的に実施しており、そうした取り組みを紹介しているところである。

【会長】

本計画は環境基本計画であるため、基本的な方針を示すにとどめ、具体的な内容は年度ごとにすすめ、来年度以降にフォローアップしていく予定である。

【D 会長】

今回の環境基本計画は、基本目標でいうところの、目標 1 気候変動・温暖化対策と目標 2 ゴミ問題・リサイクルに関する項目に重点が置かれており、残りの目標 3、4、5 が相対的に弱い構成になっていると拝見した。これは、現在の情勢としてこの二つの対策が喫緊の課題であるためだと理解できる。しかし、自然環境との共生という観点では、その他の目標も考慮したい。日本海側の海面上昇は顕著であり、この 50 年ほどで水位が明らかに上がっているというデータもある。そのため、海岸浸食などの海面上昇が米子市の海岸に与える影響をさらに考慮し、すぐには対策できなくとも、今後注目して対策を検討・注視していく旨を計画に盛り込むべきであると考え

【事務局】

ご指摘の点には、昨今の情勢に加え実務的な理由もある。今回の計画見直しの際、目標 1「脱炭素社会」に関連する「米子市地球温暖化対策実行計画（区域施策編）」を統合した。また、目標 2「循環型社会」に関しては、クリーン推進課の一般廃棄物処理計画を反映している。このため、この二つの目標が相対的に重くなってしまっている側面がある。

しかし、目標 3 以降を軽視しているわけではない。今後は、他の自治体が「生物多様性地域戦略」などを基本計画に盛り込んでいる事例も参考にしつつ、目標 3 以降の重要課題についても、基本計画の中に合体させていくことを検討する必要があると考えている。

【D 会長】

日本海側では海水温および海面水位の上昇が顕著であり、中海周辺でも潮位の上昇が確認されている。海岸侵食は海面上昇に加え、河川整備による砂の供給減や砂鉄採取文化の消失などが要因である。弓浜半島を含む地域では侵食が深刻化しており、国の事業として対応してもらえないか働きかけていたがどうなるか不明である。

【事務局】

海面上昇により海岸が受ける影響について基本計画には具体的対策は示せないが、理念として盛り込みたい。

【E 会長】

米子水鳥公園の館長は大学でも講義をされている。公園が実施する環境学習の件数には、具体的にどのような活動がカウントされているのか教えてほしい。例えば、偶発的に参加した小学生や成人向けのバードウォッチングなども含まれるのか。また、予約制の講座や大学の授業で行われる講義も対象となるのかを確認したい。

【事務局】

環境学習としてカウントするのは、計画されたイベントや講座に参加した人を対象としており、偶発的に来園して対応を受けた場合は含まれない。大学の授業として計画的に行われる講義は、環境学習の件数としてカウントされる。

【会長】

大学で講義しているのは売りにできると思う。

【F 会長】

今日の議論を踏まえ、今後に向けての意見を述べる。生物多様性の分野では、国や国際的な目標に基づき、生物多様性地域戦略を策定する枠組みがある。基礎自治体で独立した戦略策定は難しい場合は、環境基本計画の自然環境分野を拡充する形で地域戦略と位置づける事例は多く、環境省もその手引きを出している。目標1・2の比重が大きい現状を考えると、目標3の「自然環境との共生」分野を拡充するにあたり、既存の情報や取り組みを活かし、地域戦略という位置づけも念頭に置くことを提案する。

また、水源涵養林は気候変動適応策として有効なだけでなく、生態系を豊かにし、生態系を活用した防災・減災機能としても重要である。気候変動、循環型社会、自然共生それぞれの柱を立てつつも、重なり合う部分を重視し、自然環境分野の拡充をしたり、環境の枠を超えて「水がおいしい」といった市民の幸福やシビックプライドに繋がるよう、地域全体の豊かさに貢献する部分にフォーカスを当てていくことで、気候変動や循環だけではない点にフォーカスしていく方法も考えられる。

【事務局】

今後に向けた示唆に富んだご意見をいただき、感謝する。これは次なる基本計画に向けて大変重要であると受け止めている。

私自身、この1年間、基本計画の策定と審議会の運営に業務の大半を費やしてきた。皆様から承認を得られた場合、来年以降、計画策定にあてていた時間を今後のことを考える時間にあてられるので、ご指摘の通り、次なる5年後の計画に向けて、今から一つずつ検討を始めていきたい。この計画には愛着があり、今後どのようにバージョンアップしていくか、あるいは「ここをもっと直せばよかった」と思う点と向き合っていく必要があると感じている。今後も引き続き、皆様からご意見をいただければ幸いである。

【事務局】

自然共生サイトへの登録は、国内外に公園が持つ価値を発信できる点に価値がある。地域住民自身に米子水鳥公園の生物多様性の価値をより広く周知するため、登録を契機に活動や認知を高めることが重要である。今回の中間見直しを第一歩として、将来の基本計画改定時にはご指摘の内容を含めることも検討したい。

【会長】

近年、日本では珍しい生き物を趣味として採集したり飼育したりする市民が、SNS などを通じて増えている。しかし、一部では採集の過熱や外来種の飼育・放出など、自然環境に悪影響を及ぼす行為も見られる。私自身も子どもの頃、カブトムシやクワガタを取りに行った経験があるが、最近では採集が過熱し、無理に樹木に穴を開けて捕まえるような人もいる。また、外来種の飼育や放出は地域の生態系に影響を与える。こうした中で、生き物を大事にし、過剰な採集や外来種の取り扱いを控える市民の意識は非常に重要である。さらに、捕獲や飼育をひけらかすような行動や動画投稿などのマナーも大切であり、市民の関与を生物多様性保護に活かすには、正しい知識と節度ある行動が求められる。

【副会長】

来週、自治会で米子水鳥公園にウォーキングに行く予定であるが、以前に比べると公園に集まる水鳥の数は減っているように感じられる。私の印象では、鳥たちは水が張られている安来の水田に引き寄せられ、公園に戻ってくる数は少なくなっているように感じる。米子水鳥公園は、ラムサール条約に基づき、鳥たちが公園をねぐらとして生活する姿があった。それが徐々に薄れてきたのは少々寂しいことである。もちろん、これは良い悪いの話ではないが、ハクチョウは米子水鳥公園のものであるとあって、少し寂しく思っている。

【会長】

鳥取大学医学部の公衆衛生を専門とする部門で環境と健康に関わる研究や活動を行っている。このような会議でも、学区や施設分野における厚生労働省の計画運用に関する考え方を参考にしている。具体的には「ロジックモデル」に基づく論理的な計画運用である。ロジックモデルとは、目指すべき最終目標を明確にし、その達成に必要な条件や具体的なチェックポイントを順序立てて整理し、数値目標で管理する手法である。従来の「病気を半減する」「ゼロにする」といった漠然とした目標では、数年後に評価しても原因や到達できなかった理由が明確にならず、改善策につなげることができなかった。

ロジックモデルでは、例えば、ある対策を行えば規制率がどの程度下がり、その結果、がんによる死亡者がどれだけ減るかを見積もることが可能である。このように理屈に基づいた計画運用を行うことで、何がうまくいったか、どこがボトルネックだったかを把握し、次の対策に反映させることができる。事務局の仕事も、計画を作って終わりではなく、進行管理をロジックに基づいて行うことが重要であり、そうすることでより良い成果につながると考えられる。

ちなみに皆生温泉の熱源とはどのようなものか。

【事務局】

温泉の熱源を利用したものである。

【会長】

子供の頃から大山が誇りである。孤立峰にはクマはいないと聞かすが、大山は孤立峰である。しかしながら大山でもクマの目撃情報を聞く。

【F 会長】

鳥取県ではクマの目撃情報や出没情報をマップで公表しており、大山でも目撃自体は少ないものの全くいないわけではない。クマの行動範囲は広く、このエリアにも存在していることがわかる。

【C 委員】

元県の担当課長の立場から申し上げる。中国山地のクマは兵庫県や鳥取県東部の東中国個体群と広島を中心とした島根・鳥取西部の西中国個体群に分かれている。東中国個体群は個体数が多い。西中国個体群は分散しており、日南のほうに清掃するが、大山には少ないものの0ではない。西部では目撃例や捕獲例はあるものの、東部に比べれば桁違いに少ない。全体として大山におけるクマの生息は限定的である。

【会長】

意見が出尽くしたと判断する。

これ以降の計画修正については会長である私に一任していただき、事務局と調整を行いたい。また答申については、会長である私が代表として行いたいとよろしいか

(異議なし)

【会長】

答申案については配布のとおりである。

【副会長】

である調だが、ですます調にはできないか。

【会長】

事務局としてはどうか。

【事務局】

全く問題ない。

【会長】

では修正する。他にはないか。無いようなので文末をですます調に修正し、案を確定したい。事務局から何かあるか。

【事務局】

案が確定したら委員の皆様に共有したい。

【事務局】

今年度の対面での会議は今回が最後であるため、市民生活部長の橋尾からご挨拶をしたい。委員の皆様の任期は12月20日までであり、今回の会議が現メンバー全員での最後の集まりとなる。

今年度は、第2次環境基本計画の見直しにあたり、皆様には大変お世話になった。通常は年1回の進捗確認であるところ、今年度は3回集まり、活発な議論を行っていただいた。環境問題は一人ひとりに身近でありながら幅広いテーマであるため、皆様の知見を活かした議論によって、新しい計画案がほぼ完成したことに深く感謝する。

しかし、基本計画の見直しが完了したからといって全てがうまくいくわけではなく、今後は計画をいかに実行していくかが重要である。国や県の計画を基本にしつつ、米子市に適した内容にするため、皆様の意見を反映した案が今回の計画である。今後も市の進捗管理や実行に関して、引き続きご協力をお願いしたい。また、委員を退任される方も、今後も米子市の環境に関心を持ち、意見をいただければ望ましい。

【会長】

本日の議題は以上である。

(終了：午前11時20分)